

arcserve® Backup r16

『Windows Server Failover Clustering』環境復旧ガイド

<その2>

ジョブ フェールオーバー構成の
arcserve Backup サーバ復旧

2014年 10月

REV: 1.5

arcserve

改訂履歴

2012年10月 Rev 1.0 リリース

2014年10月 arcserve Japan 合同会社設立に伴い、Rev1.5に改訂

本ガイド内の記号について



メリット

arcserve Backup の利用メリットや新機能などの紹介



メモ

補足説明や arcserve Backup の仕様などの紹介



ポイント

設定/運用時の注意事項やポイントなどの紹介

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserve, LLC. は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve, LLC. は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証(商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます(ただし、これに限定されません))も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve, LLC. は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など(ただし、これに限定されません)、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve, LLC. がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

Copyright © 2014 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

目次

1. はじめに.....	1
1.1 WINDOWS SERVER FAILOVER CLUSTERING (WSFC) について.....	2
1.2 ARCSERVE BACKUP について.....	2
1.3 利用バージョンについて.....	2
1.4 ジョブ フェールオーバー構成へ導入可能な製品.....	2
1.5 クラスタシステムの構成要素.....	3
2. ジョブ フェールオーバー構成の ARCSERVE BACKUP サーバ全体復旧	4
2.1 ジョブフェールオーバー構成とは	4
2.2 アクティブノードと共有ディスクの復旧	5
2.3 ARCSERVE データベースの復旧	19
2.4 パッシブノードの復旧	32
3.1 クラスタ非クォーラム共有ディスクの復旧	35
3.2 クラスタクォーラム ディスクの復旧.....	35
4. 製品情報と無償トレーニング情報.....	36
4.1 製品情報.....	36
4.2 サポート情報	36
4.3 トレーニング情報	36

1. はじめに

昨今では、社内システムにおいても社内システムにおいても無停止稼働が求められるミッションクリティカルなシステムが増えています。数分のシステムダウンが巨額の損害に通じる場合も多く、ファイル サーバが利用できなくなるだけで業務が停滞し、何十人、何百人が作業中断を余儀なくされます。システムを無停止に限りなく近い構成にすることが高可用性のソリューションと呼ばれます。

高可用性のシステムを実現するための代表的システムがクラスタ システムです。クラスタ システムを構成するメリットは非常に多く、いくつかの障害ポイントをまとめて解決することができます。例えば、ネットワーク アダプタ、電源、ハードディスク、アプリケーションやサービスなどです。クラスタ システムは、ローカルディスクではなく、複数のサーバから接続された共有ディスクを利用して構築されます。共有ディスクを利用することによって、共有ディスクに接続されたサーバの中の一台に障害が発生した場合でも、データの引継ぎを行う手間がなく容易に復旧させることができます。このように高可用性システムは業務の継続を目的としているため、オペレーション ミスなどの人的エラーによるデータ損失について考慮されていないことが多く、高可用性システムであってもデータを保護するためには、バックアップ システムが必要です。

arcserve Backup は代表的なクラスタ システムをはじめ、高可用性 システムに対応しています。本ドキュメントでは、代表的なクラスタ システムである日本マイクロソフト株式会社のクラスタ システム (Windows Server Failover Clustering (WSFC)) に arcserve Backup を導入し、バックアップ ジョブがフェールオーバーする環境を作成する手順を説明します。(マニュアルや Readme、弊社ウェブ ページにもクラスタ システムの注意/制限事項が掲載されているため、併せてご確認ください) 一般的な arcserve Backup 製品の説明や注意点については、弊社ウェブ ページに公開されているドキュメント等をご参照ください。

Windows Server Failover Clustering についての詳細な情報は、日本マイクロソフト株式会社の文書を参照してください。

1.1 Windows Server Failover Clustering (WSFC) について

クラスタとは、独立したコンピュータから成る集合です。各コンピュータが連動してサービスとアプリケーションの可用性を高めます。クラスタ サーバ (ノード) は、物理ケーブルとソフトウェアにより接続されます。ノードの 1 つに障害が発生した場合、他のノードがフェールオーバーと呼ばれる処理を介してサービスの提供を開始します。

1.2 arcserve Backup について

20 年以上の実績を持つ arcserve Backup は、1 台のサーバから大規模な環境まで、多様なビジネスシーンで活用できます。使いやすい日本語ユーザインターフェイスを備え、ディスクからディスク、ディスクからテープへのバックアップはもちろん、多様なバックアップ/リストア機能を標準で搭載したソフトウェアです。さらに災害対策として注目度の高いクラウドへのデータ保護や、データの肥大化対策である重複排除機能、データ漏えい防止策の1つである暗号化など拡張性に優れた機能を標準で備えています。

1.3 利用バージョンについて

OS: Windows Server 2008 R2 (SP なし)
arcserve Backup r16 for Windows Service Pack 1 (Build: 6838)

1.4 ジョブ フェールオーバー構成へ導入可能な製品

ジョブ フェールオーバー環境をサポートしているオプションは以下です。

- arcserve Backup for Windows
- Central Management Option
- Disaster Recovery Option
- Tape Library Option
- SAN Option
- Enterprise Module
- NDMP NAS Option
- Global Dashboard

1.5 クラスタ システムの構成要素

本ガイドでは、以下の図に示すアイコンを利用して説明します。



クラスタ ノード (仮想ノード)



アクティブ ノード



パッシブ ノード



共有ディスク



テープ デバイス または ディスク ベース デバイス



SAN スイッチ

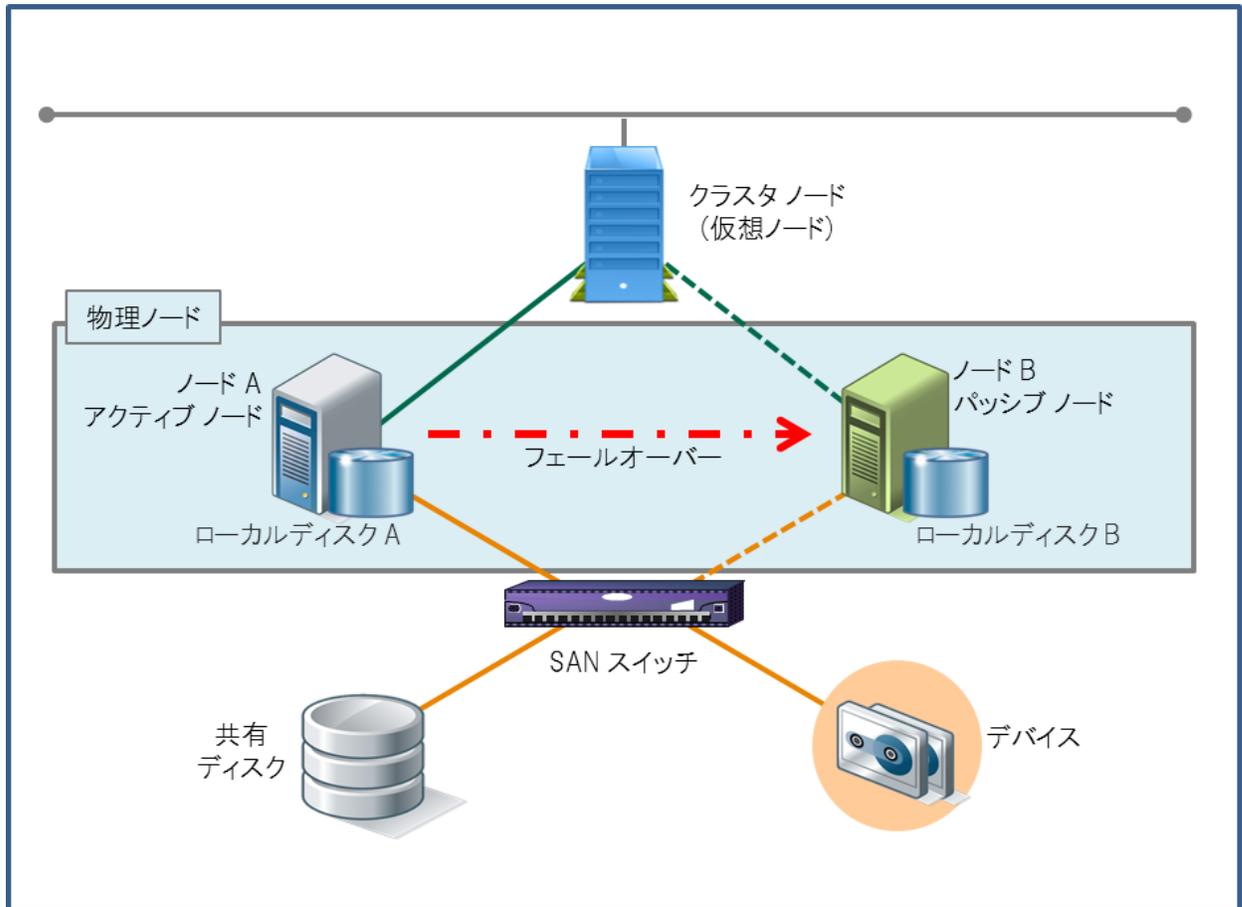


ローカル ディスク

2. ジョブ フェールオーバー構成の arcserve Backup サーバ全体復旧

2.1 ジョブ フェールオーバー構成とは

ジョブ フェールオーバー環境へ arcserve Backup を導入すると、バックアップ サーバ自身がフェールオーバーすることができます。＜図1＞のような構成では、ノード A でバックアップ実行中にシステムでフェールオーバーが発生すると、arcserve Backup のバックアップ ジョブも切り替わったノード B で継続することができます。arcserve Backup では、この構成をジョブ フェールオーバー構成と呼びます。



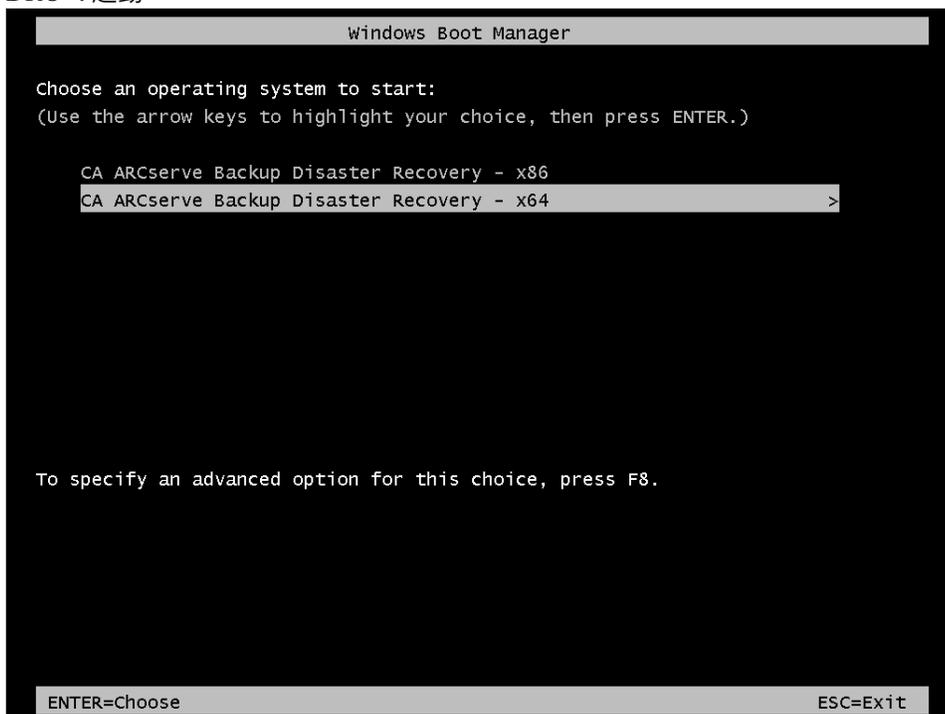
＜図 1＞

2.2 アクティブ ノードと共有ディスクの復旧

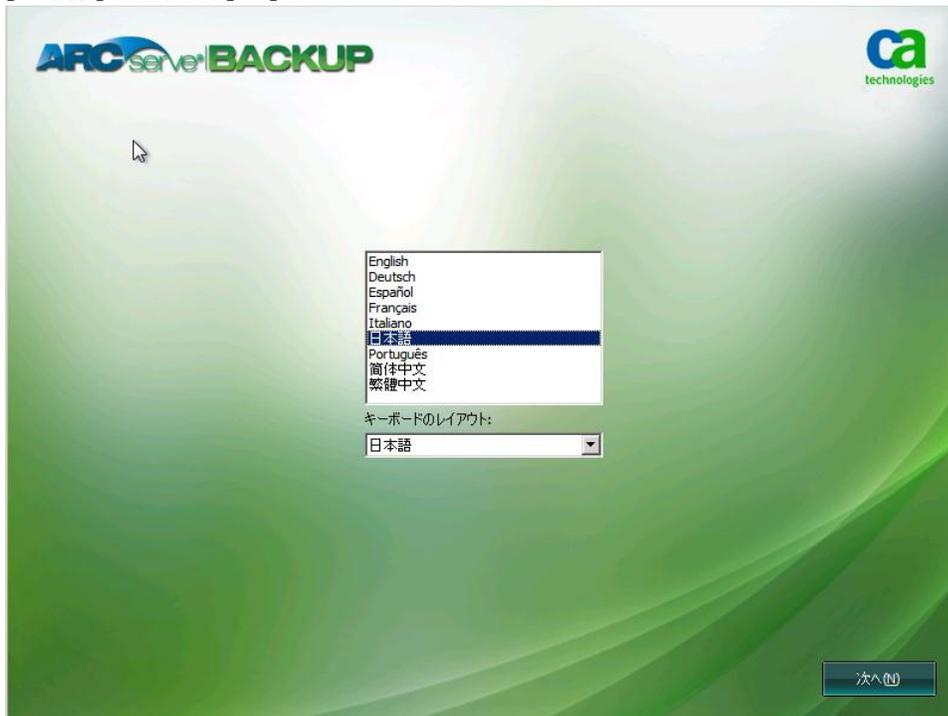
Disaster Recovery Option (以降 DRO と記載) を利用したバックアップ サーバの復旧手順を行います。DRO を利用せずサーバの復旧を行う場合、arcserve Backup の管理者ガイド、第 4 章: データのリストア (P357 ベスト プラクティス - Disaster Recovery Option を使用せずに CA ARCserve Backup サーバを惨事復旧する方法) を参照してください。

arcserve Backup インストール DVD からサーバを起動します。

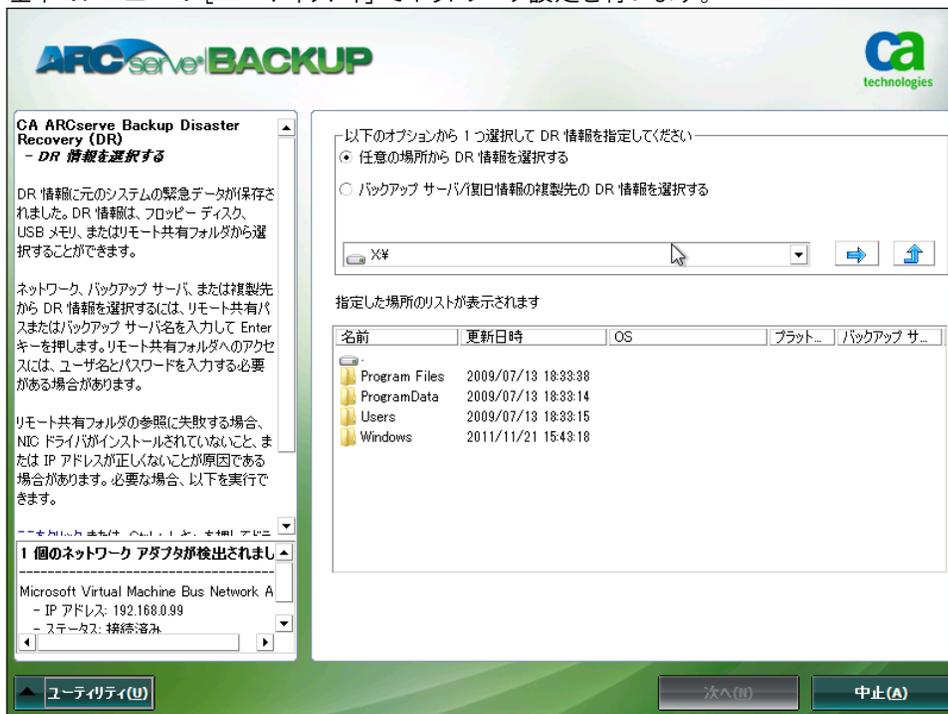
(1) DRO の起動



- (2) [キーボードのレイアウト]
 [日本語] を選択し、[OK] をクリックします。



- (3) [DR 情報を選択する]
 DR 情報を選択するために、まず初めにネットワークの設定を行います。
 左下のメニューの [ユーティリティ] でネットワーク設定を行います。



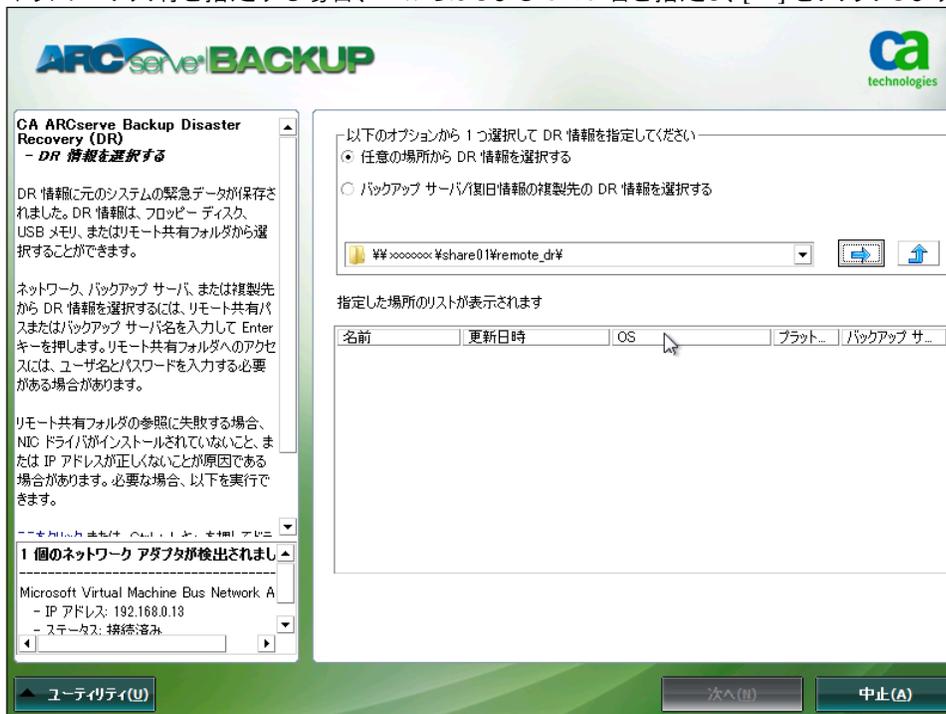
(4) [ネットワークの設定]

IP アドレスと DNS サーバの設定を行います。



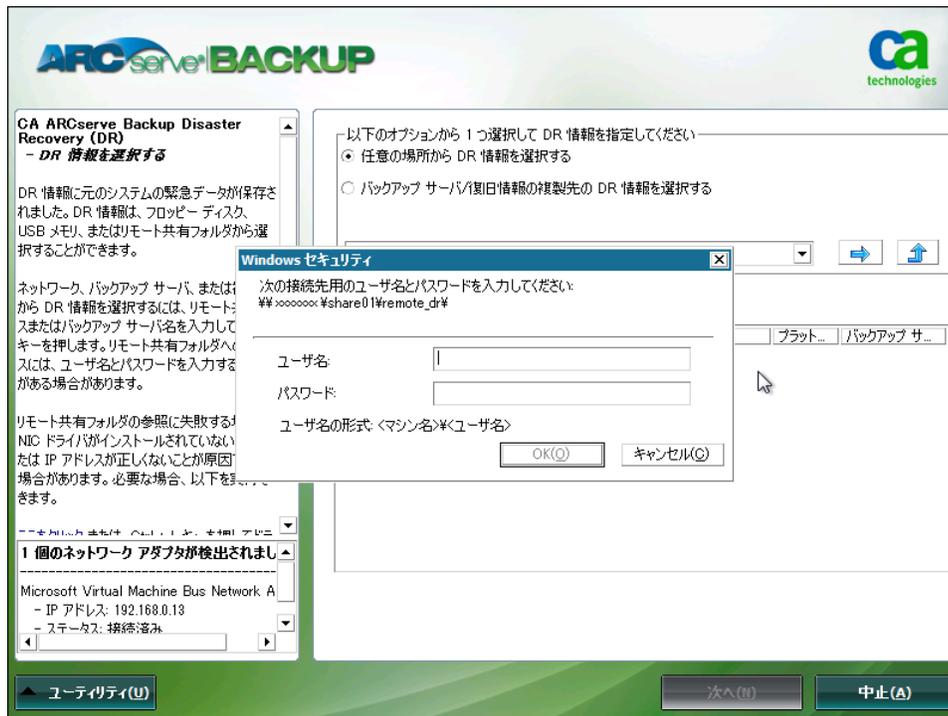
(5) [DR 情報を選択する]

[任意の場所から DR 情報を選択する] が選択されていることを確認し、DR 情報の場所を入力します。ネットワーク共有を指定する場合、¥¥からはじまる UNC 名を指定し、[→] をクリックします。



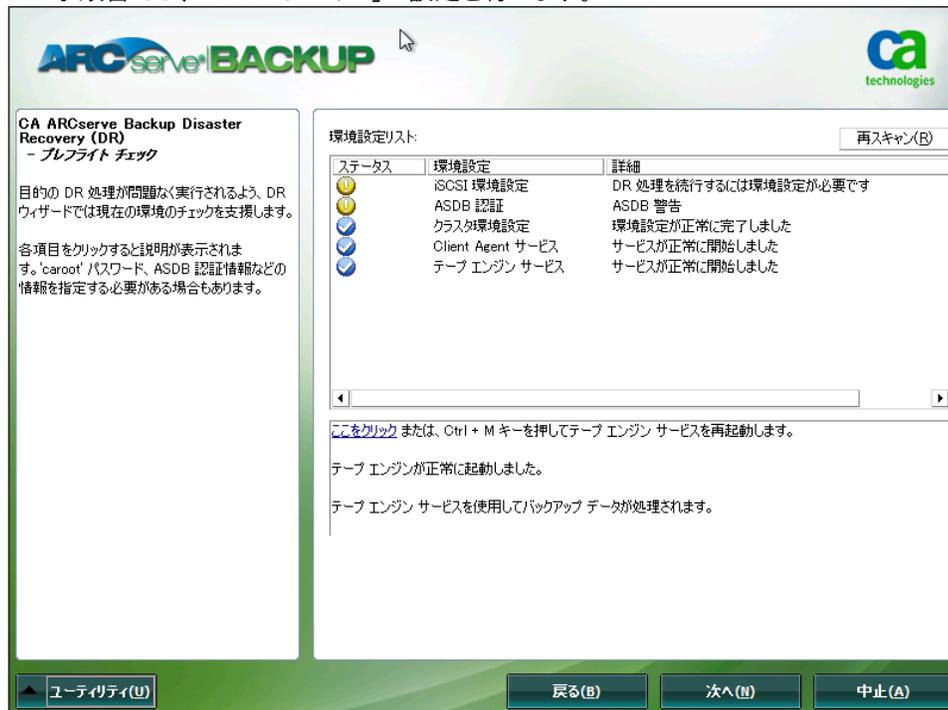
(6) [Windows セキュリティ]

ユーザ名とパスワードを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。
 ※ クラスタ環境はドメイン環境のため、ユーザ名の形式は「ドメイン名¥ユーザ名」です。

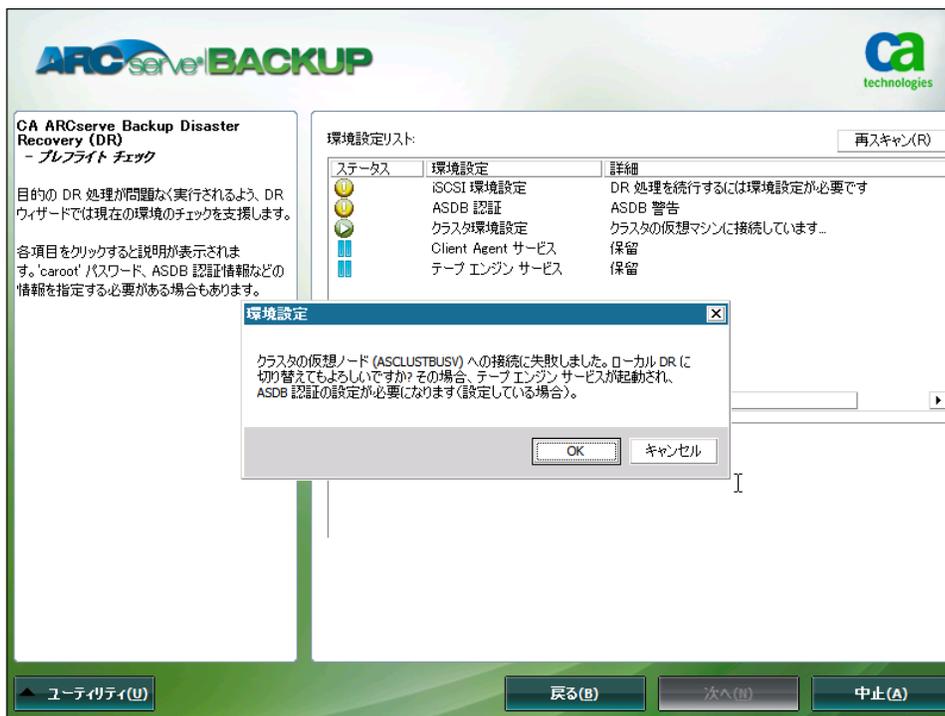


(7) [プレフライト チェック]

DR を行うためのチェックが実行されますので、指示に従って iSCSI 等を設定します。
 この手順書では、「iSCSI デバイス」の設定を行います。

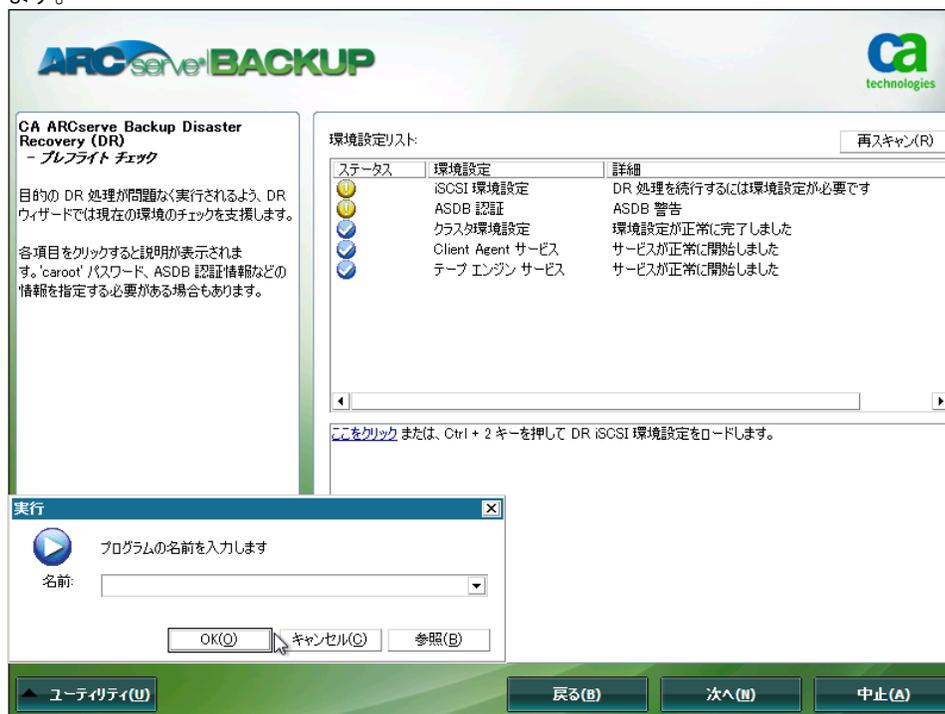


※ DR を実行するための事前のチェックが実行され、クラスタ環境を復旧するため、クラスタの仮想ノードが見つからないという警告のメッセージが出されますが、[OK] をクリックします。

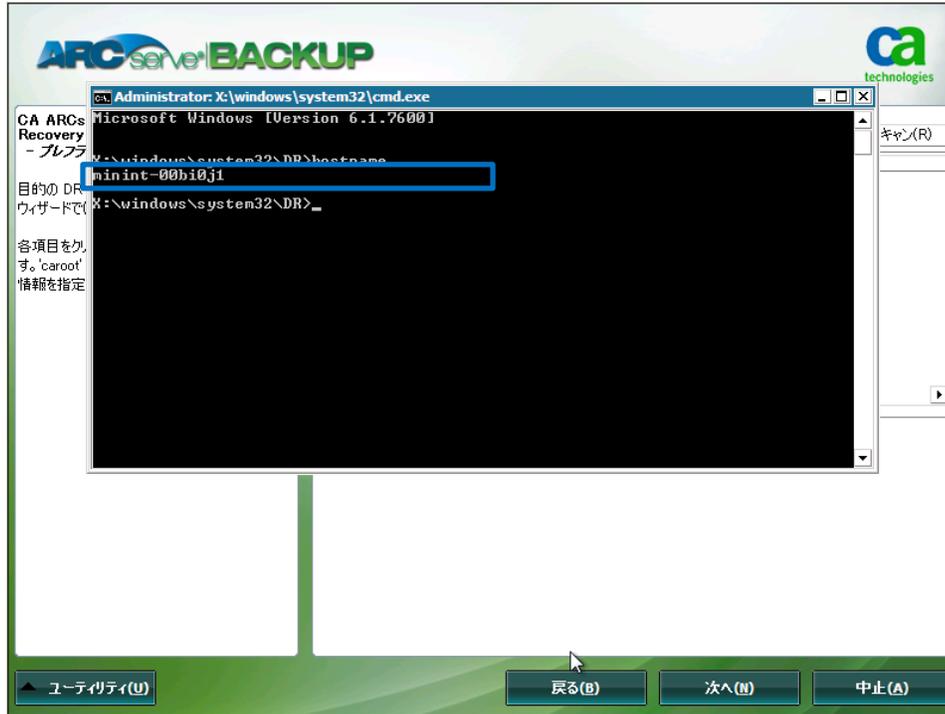


<iSCSI デバイスの設定方法>

(7)-1 ネットワーク上の iSCSI デバイスに接続するため、DR 中のホスト名を調べます。
[プレフライト チェック] 画面左下の [ユーティリティ] メニューから [実行] を選択し、名前に [cmd] と入力します。



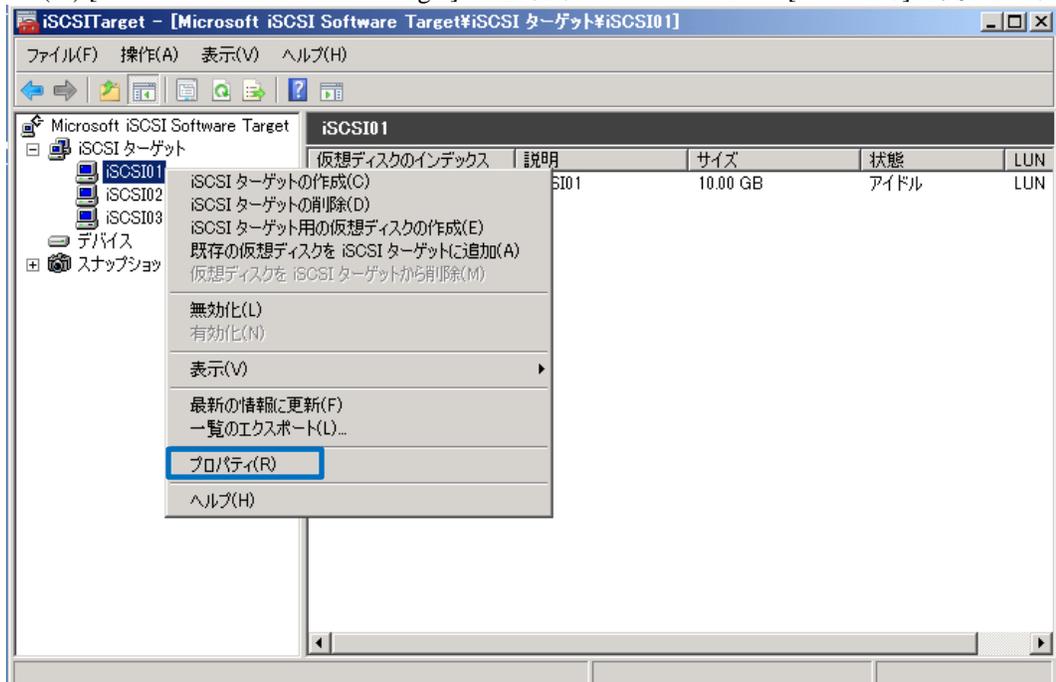
(7)-2 コマンドプロンプトで、[hostname] を入力し、DR 中のホスト名を確認します。



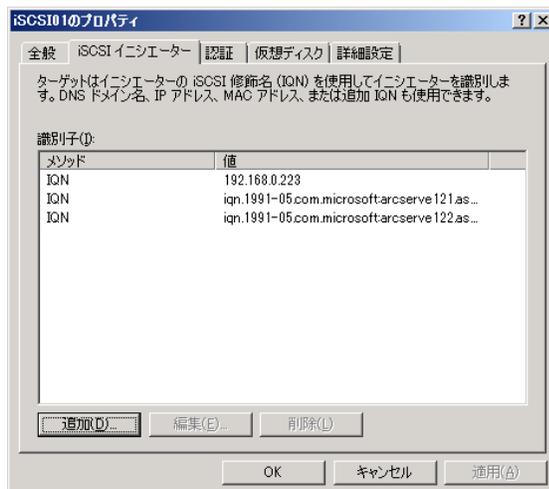
(7)-3 iSCSI デバイスがセットされているサーバで以下の作業を行います。

以下は「Microsoft iSCSI Software Target」を利用した例です。

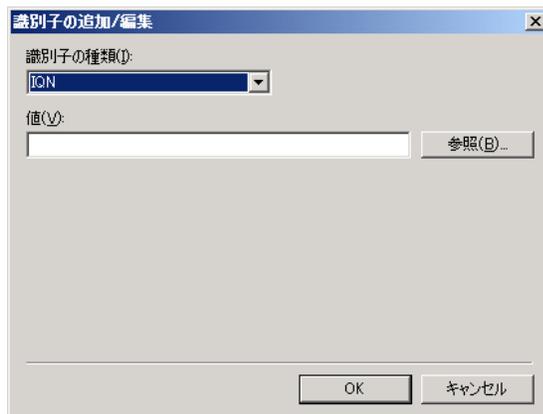
(ア) [Microsoft iSCSI Software Target] を起動し、iSCSI ターゲットの [プロパティ] を開きます。



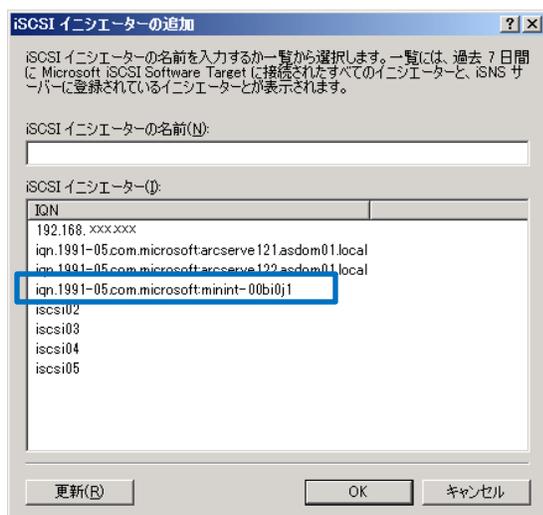
(イ) [iSCSI のプロパティ] の[iSCSI イニシエーター] タブで、[追加] をクリックします。



(ウ) [識別子の追加/編集] で、[参照] をクリックします。



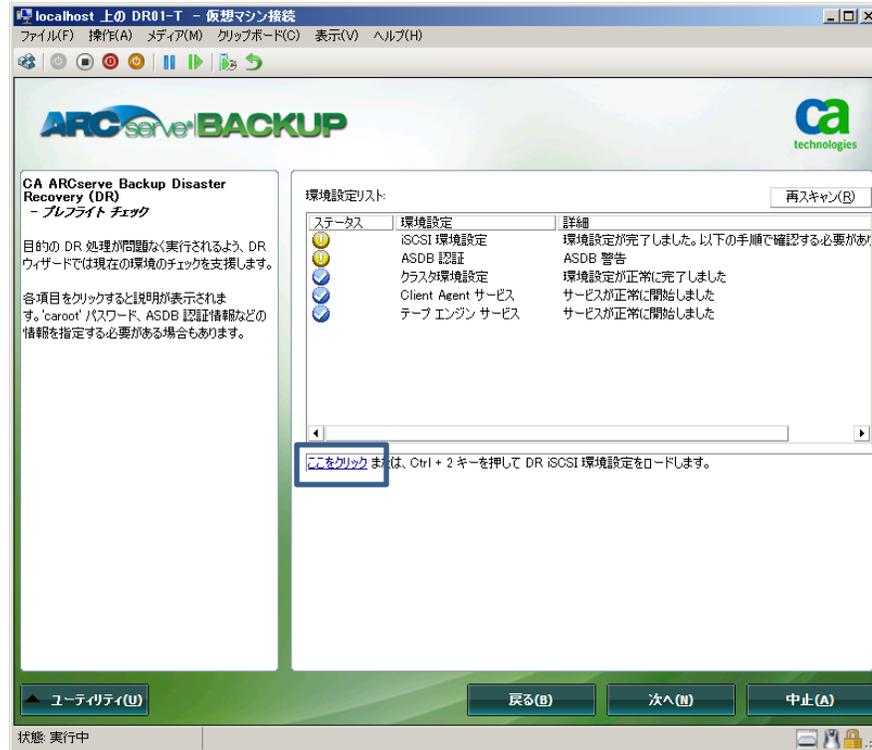
(エ) [iSCSI イニシエーターの追加] で、DR 中のマシンの iSCSI イニシエーターを選択し、[OK] をクリックします。



(8) [プレフライト チェック]

DR 実行中のマシンで、iSCSI 環境設定を開きます。

[環境設定リスト] で [iSCSI 環境設定] を選択し、[ここをクリック] をクリックします。



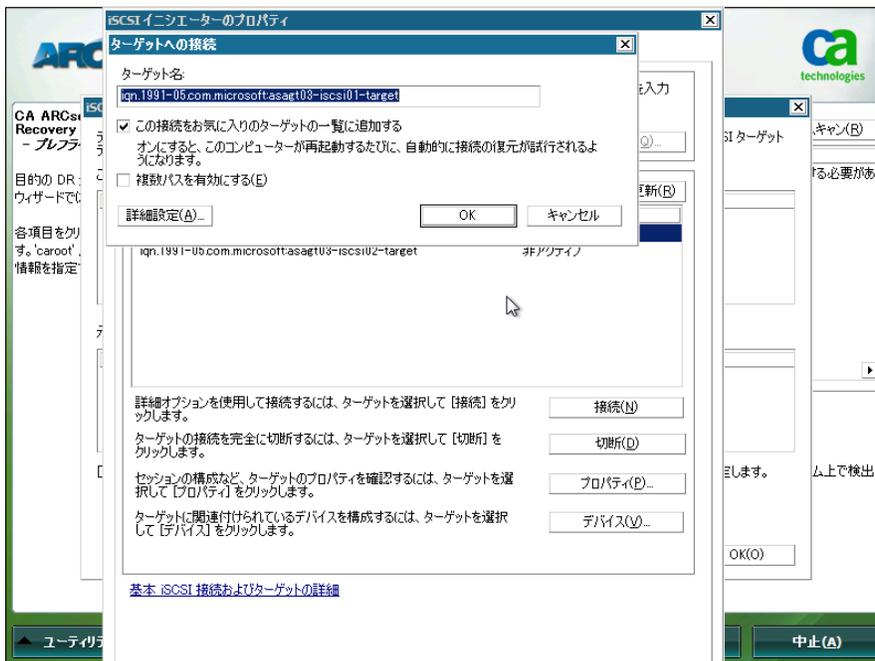
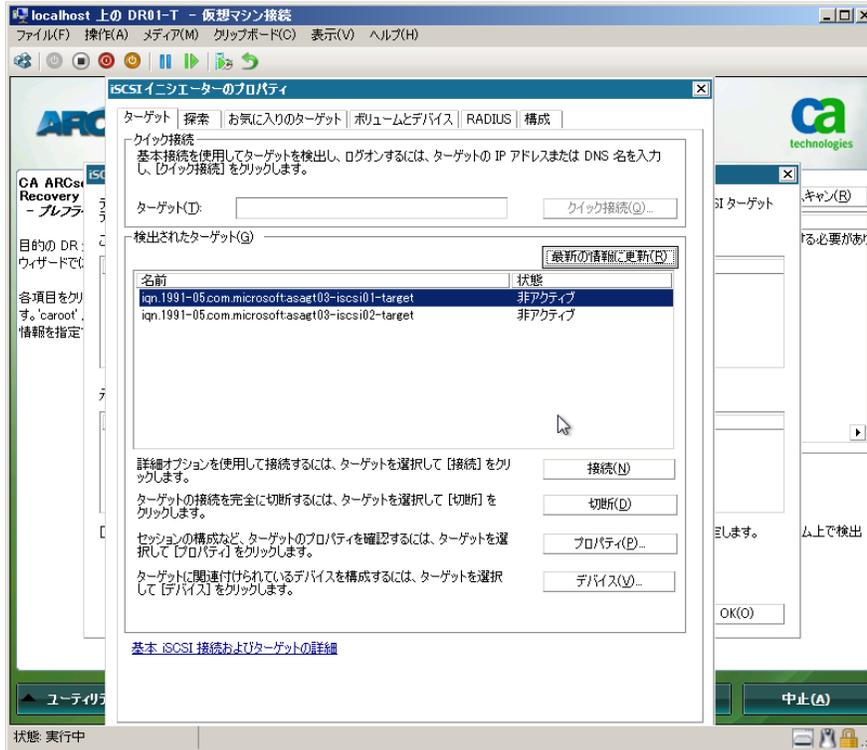
(9) [iSCSI イニシエーターのプロパティ]

[最新の情報に更新] をクリックします。



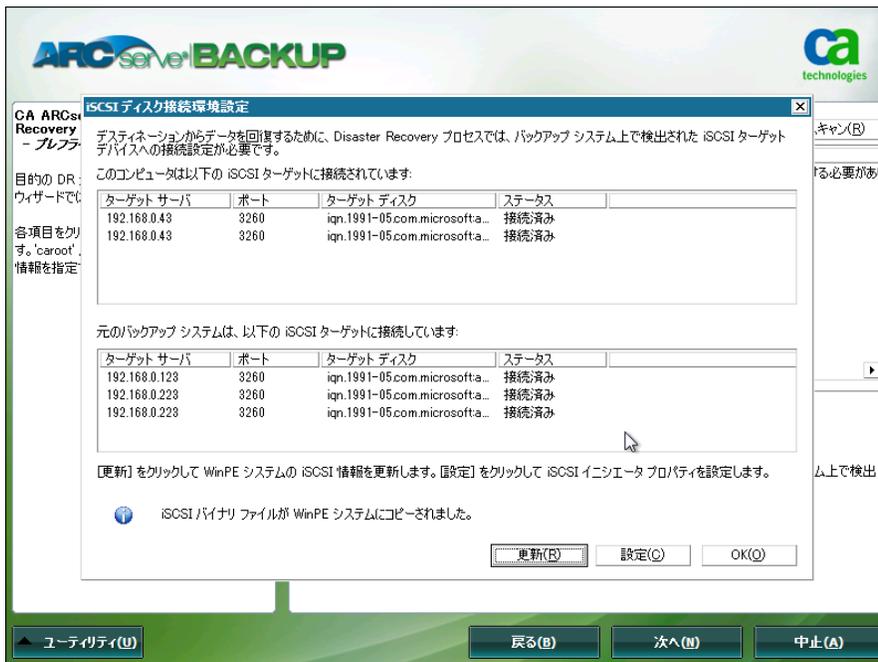
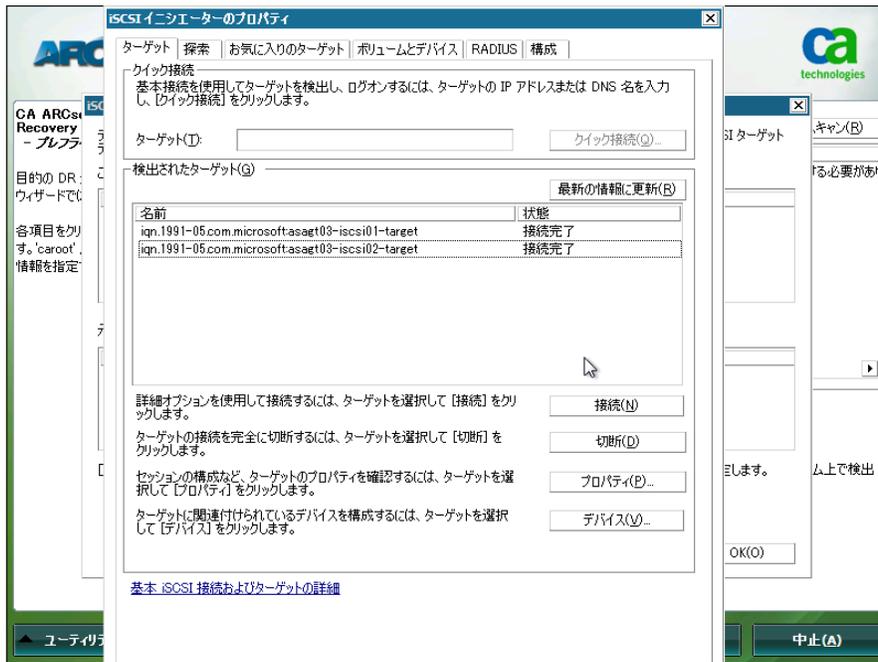
(10) [iSCSI イニシエーターのプロパティ]

[検出されたターゲット] に表示されたデバイスの内容を確認し、[接続] をクリックし接続します。



(11) [iSCSI イニシエーターのプロパティ]

iSCSI ターゲットの接続が完了したことを確認し、[X] をクリックし画面を閉じます。



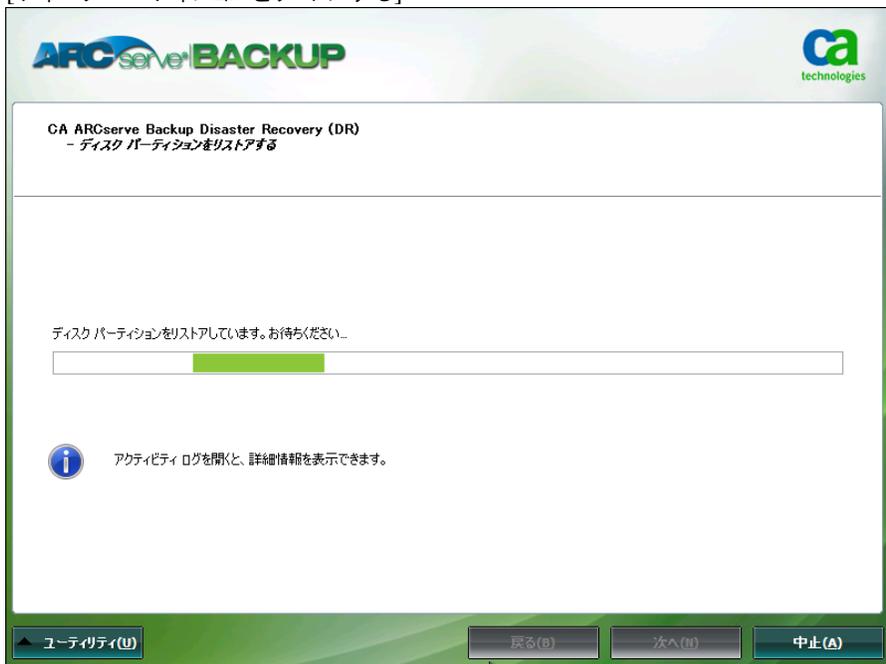
※ iSCSI ディスクの接続情報が表示されない場合は、[更新] ボタンをクリックします。

(12) [プレフライト チェック]

iSCSI 環境設定が完了したら、[次へ]をクリックします。

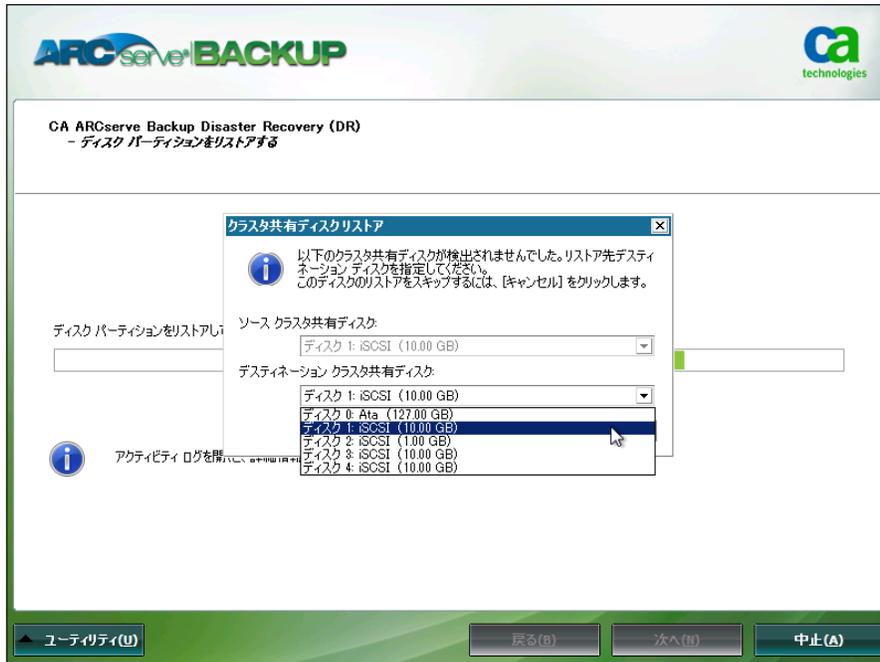


(13) [ディスクパーティションをリストアする]



(14) [ディスクパーティションをリストアする]

[クラスタ共有ディスク] 画面が表示されますので、リストアする [ソース クラスタ共有ディスク] を [デスティネーション クラスタ共有ディスク] に割り当てます。



(15) [リストア対象セッションを選択する]

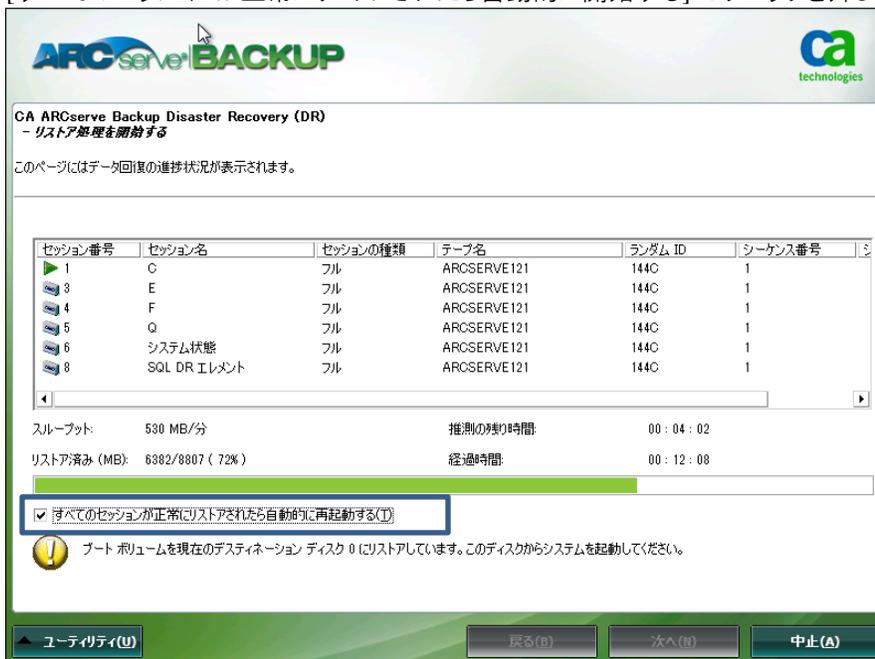
リストア対象のセッションが割当てられていることを確認し、[次へ] をクリックします。



- (16) [セッション リストアのサマリ]
 セッション リストアのサマリを確認し、[開始] をクリックします。



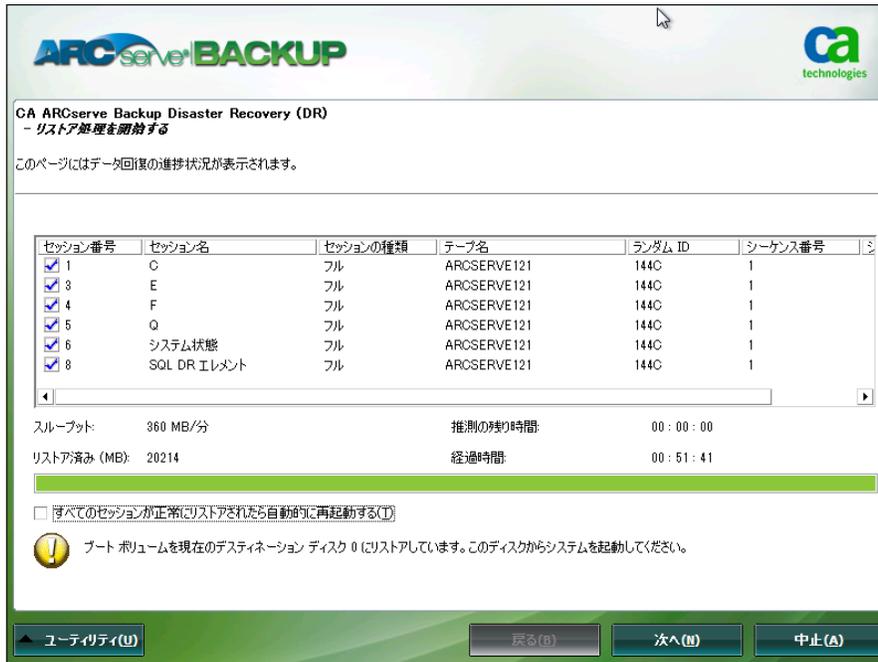
- (17) [リストア処理を開始する]
 [すべてのセッションが正常にリストアされたら自動的に開始する] のチェックを外します。



※ [すべてのセッションが正常にリストアされたら自動的に開始する] はデフォルトでチェックされています。リストア後、内容を確認し、再起動したい場合チェックを外します。

(18) [リストア処理を開始する]

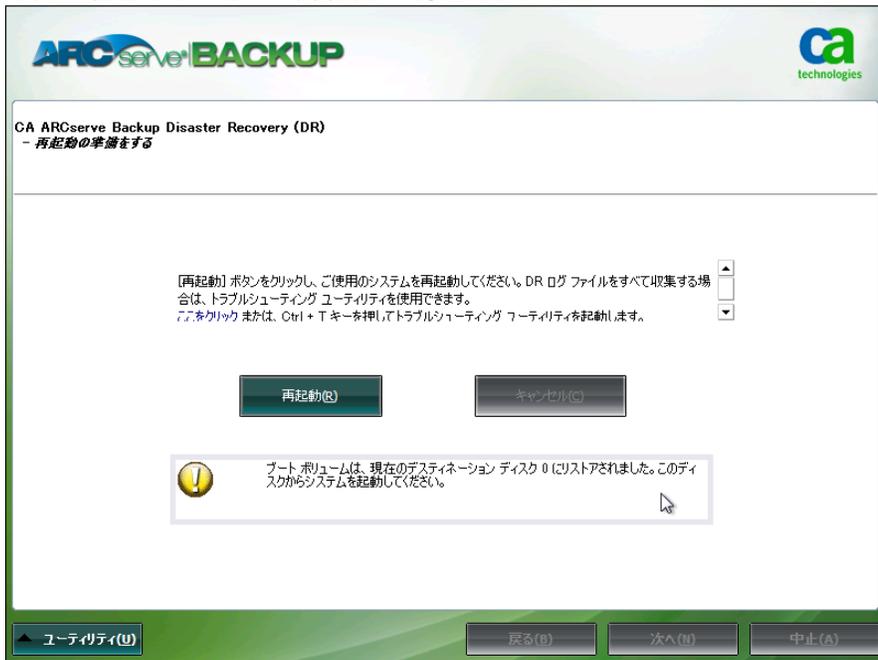
すべてのセッションがリストアされ、セッション番号の左に マークがついていることを確認し、[次へ] をクリックします。



(19) [再起動の準備をする]

[再起動] をクリックします。

(17) で [すべてのセッションが正常にリストアされたら自動的に再起動する] のチェックを外していない場合は、この画面は表示されず、自動的に再起動します。



2.3 arcserve データベースの復旧

arcserve データベースを復旧する方法は、ローカルで復旧する方法(2.3.1)とリモートで復旧する方法(2.3.2)の2通りがあります。

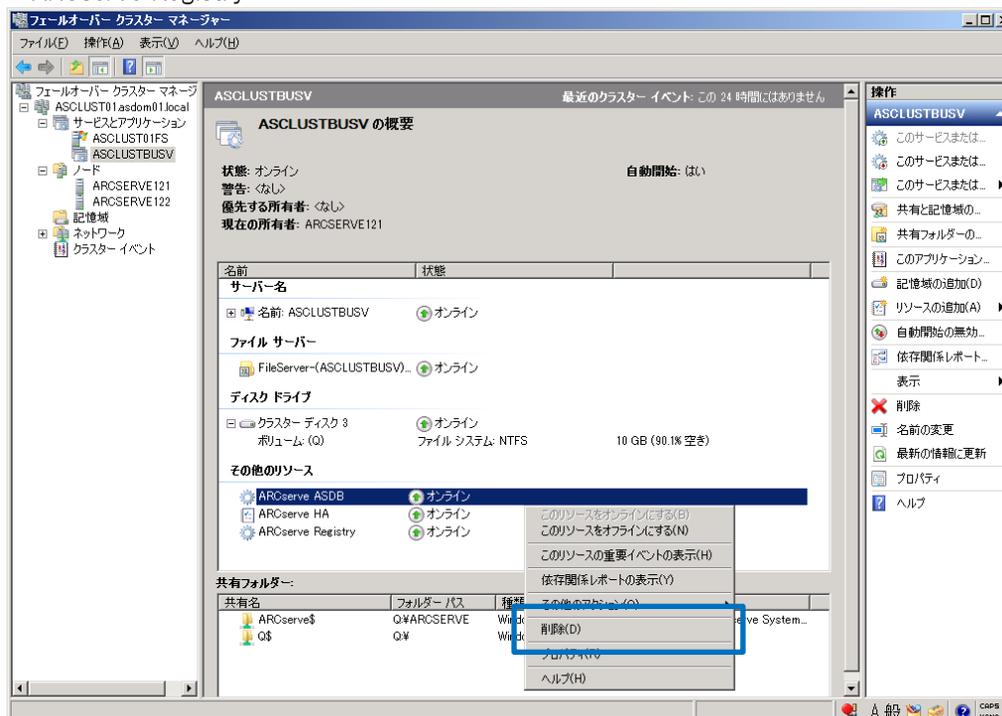
別の arcserve Backup サーバから該当のバックアップ データを参照できる場合は、2.3.2 の方法で簡単に arcserve データベースを復旧することができます。

2.3.1 アクティブ サーバ (ローカルの仮想クラスタ)で ARCserve データベースを復旧

(1) [フェールオーバー クラスタ マネージャ]で、リソースの削除
ドメインの管理者でサーバにログオンし、[スタート] - [管理ツール] - [フェールオーバー クラスタ マネージャ] を起動し、クラスタが正常に動作していることを確認します。

[その他リソース] に登録されている arcserve Backup 関連の以下の3つを削除します。

- ARCserve ASDB
- ARCserve HA
- ARCserve Registry



(2) arcserve Backup 関連サービスの起動

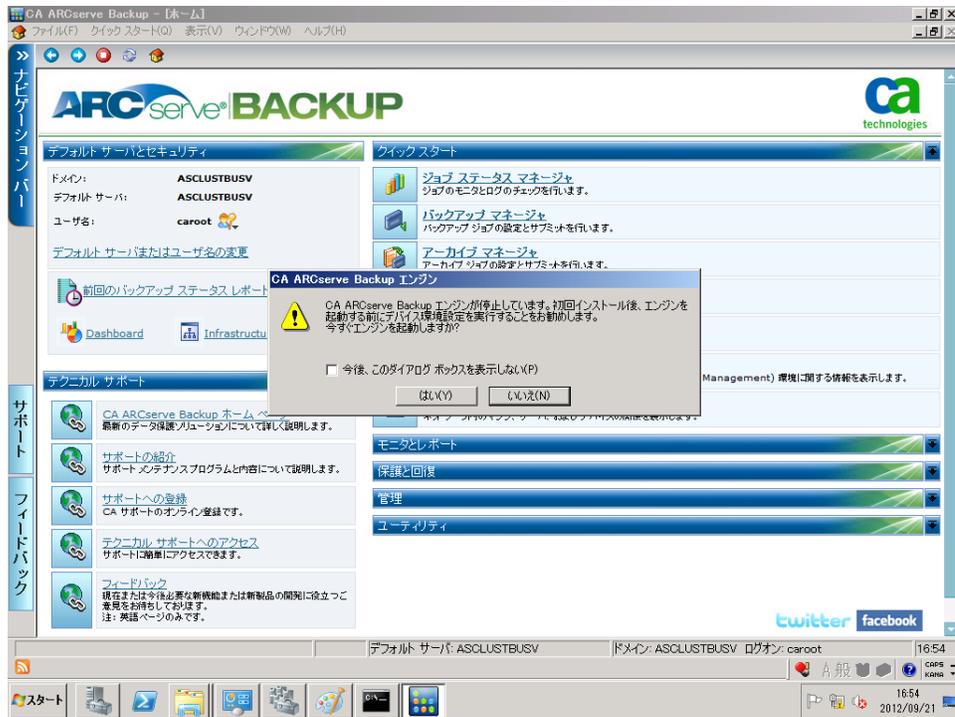
[フェールオーバー クラスタ マネージャ] でリソースを削除すると、arcserve Backup 関連サービスが停止しますので、コマンドラインで arcserve Backup インストール フォルダへ移動し、[cstart.bat] を実行します。

(3) arcserve Backup マネージャの起動

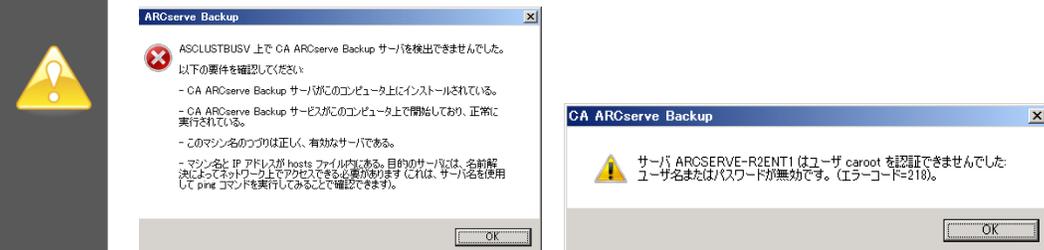
arcserve Backup マネージャを起動し、現在のジョブの状態を確認します。

マネージャ開始時に、以下のような [CA ARCserve Backup エンジン] のメッセージが表示されますが、[いいえ] をクリックします。

※ arcserve データベース未回復のため、データベース エンジンは [一時停止] しています。

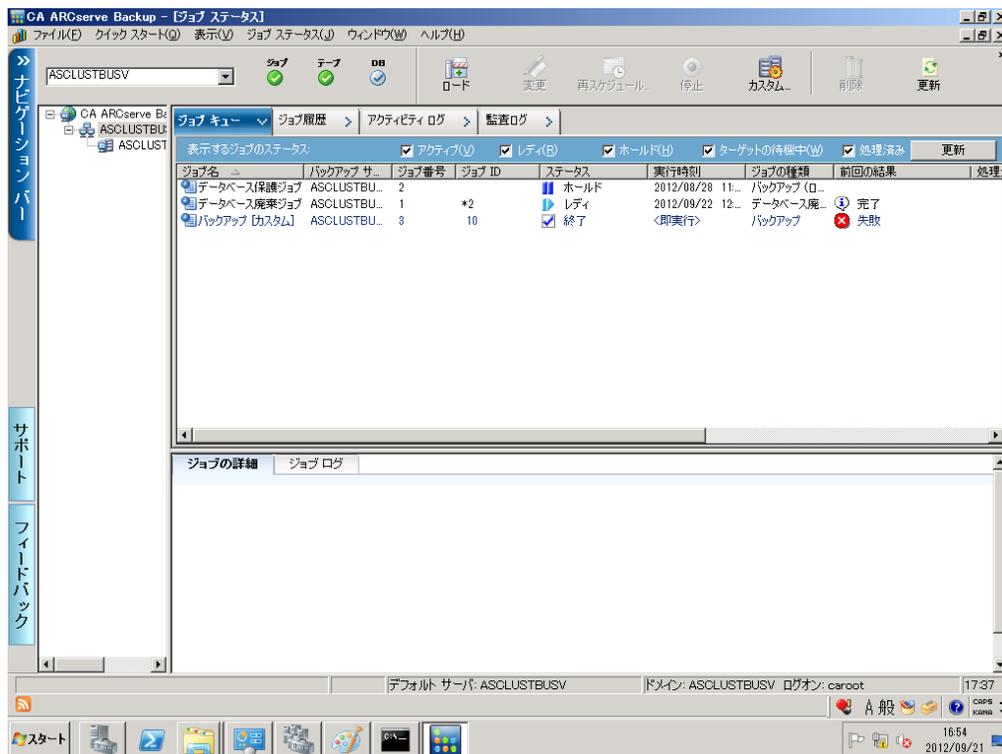


arcserve Backup 関連のサービスが開始していない場合、「バックアップサーバの検出ができない」や「caroot のパスワードが違う」などの以下のようなメッセージが表示されます。しばらく待ってから再度マネージャを起動します。



(4) ジョブの確認

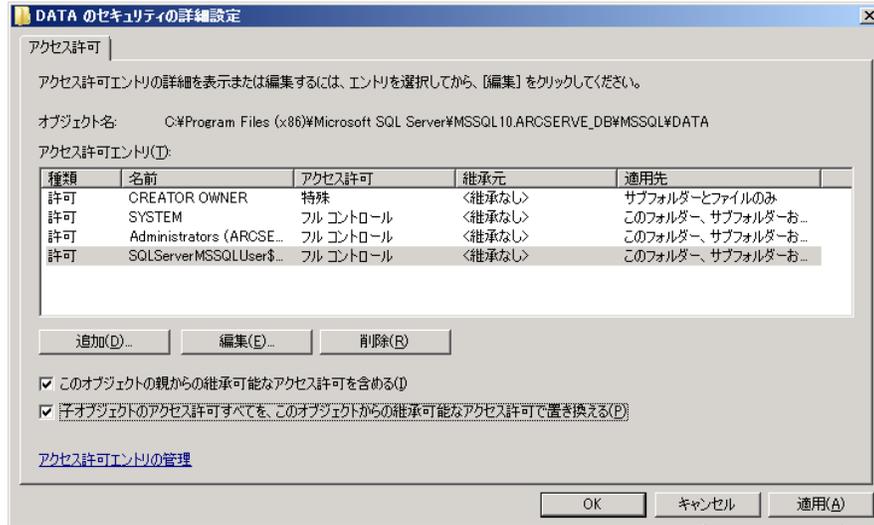
ジョブステータス マネージャを開き、実行中のジョブがないことを確認します。
確認が完了したら、マネージャを閉じます。



ジョブ フェールオーバー環境では、復旧したサーバのクラッシュ状態のバックアップ ジョブを継続しようとするため、再度バックアップが実行されます。バックアップ ジョブが実行中の場合は、実行中のジョブを右クリックし [ジョブの停止] を行い、すべてのバックアップ ジョブが停止するまで待機します。

(5) 「ARCserve データベース フォルダ」のセキュリティ設定

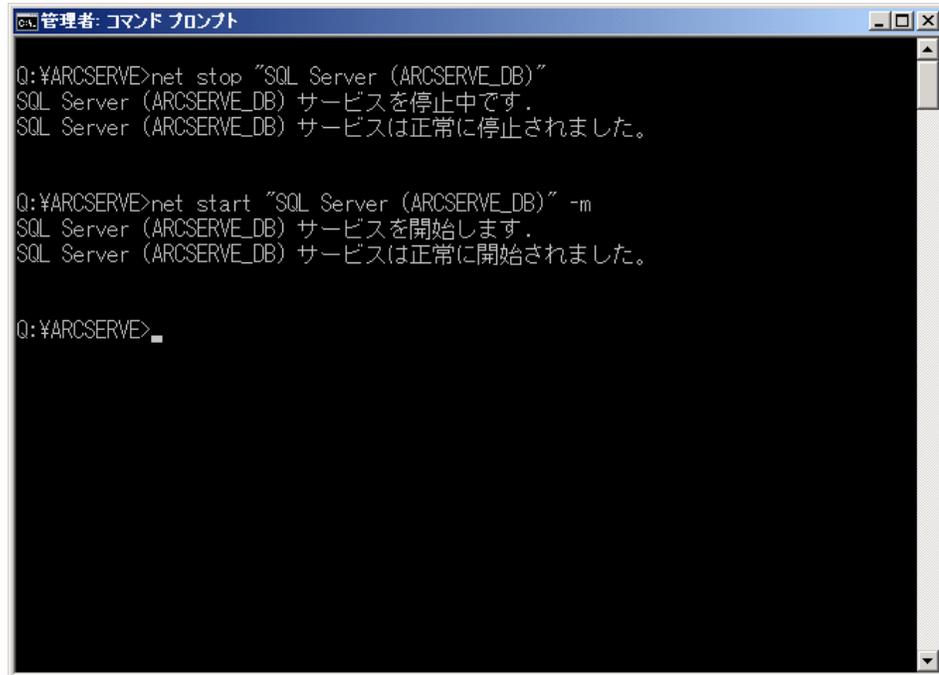
arcserve データベース インストールフォルダ(デフォルト [C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\MSSQL10.ARCSE...])の Data フォルダを右クリックし、[プロパティ] を選択します。[プロパティ] ダイアログ ボックスで、[セキュリティ] タブをクリックし、[詳細設定] をクリックします。[Data のセキュリティの詳細設定] ダイアログ ボックスが開きます。[アクセス許可] タブをクリックし、[子オブジェクトすべてのアクセス許可すべてを、このオブジェクトからの継承可能なアクセス許可で置き換える] オプションをオンにして、[OK] をクリックします。



(6) SQL Server ARCserve_DB インスタンスをシングルユーザモードで起動

SQL Server ARCserve_DB インスタンス停止し、シングル ユーザ モードで起動します。

> net start "SQL Server (ARCserve_DB)" -m



(7) [データベース回復ウィザード]の起動

arcserve Backup マネージャを閉じます。

[スタート]メニュー - [すべてのプログラム] - [CA] - [ARCserve Backup] - [データベース回復ウィザード] を実行します。

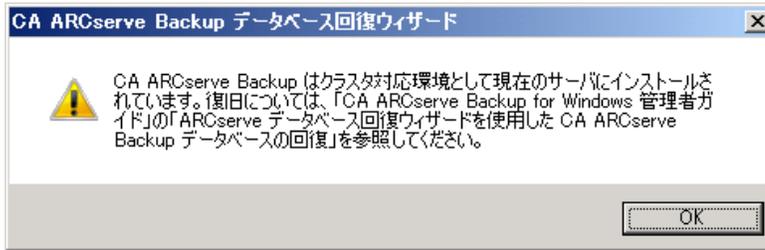
ユーザ名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。

※ ユーザ名は「ドメイン名¥ユーザ名」を指定します。



arcserve Backup 関連サービスが起動していない場合、以下のメッセージが出されることがあります。arcserve Backup インストール フォルダ の [cstart.bat] を実行し、arcserve Backup 関連サービスをすべて起動してください。

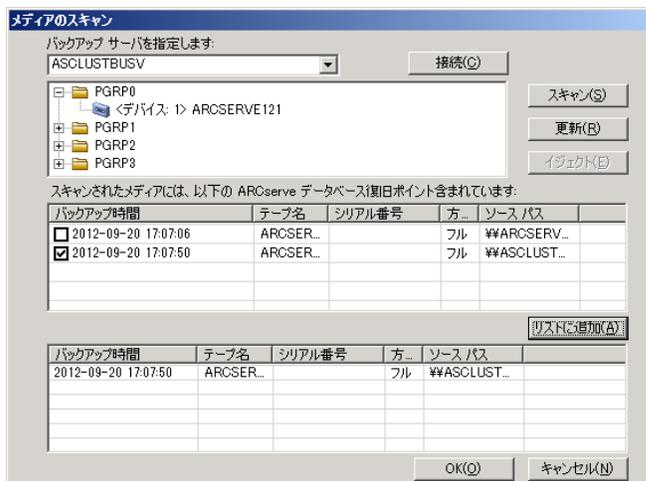
- (8) [CA ARCserve Backup データベース回復ウィザード]
以下の警告メッセージが出されますので、[OK] をクリックします。



- (9) [リストア ポイント]
復旧したいポイントに を入れ、[次へ] をクリックします。

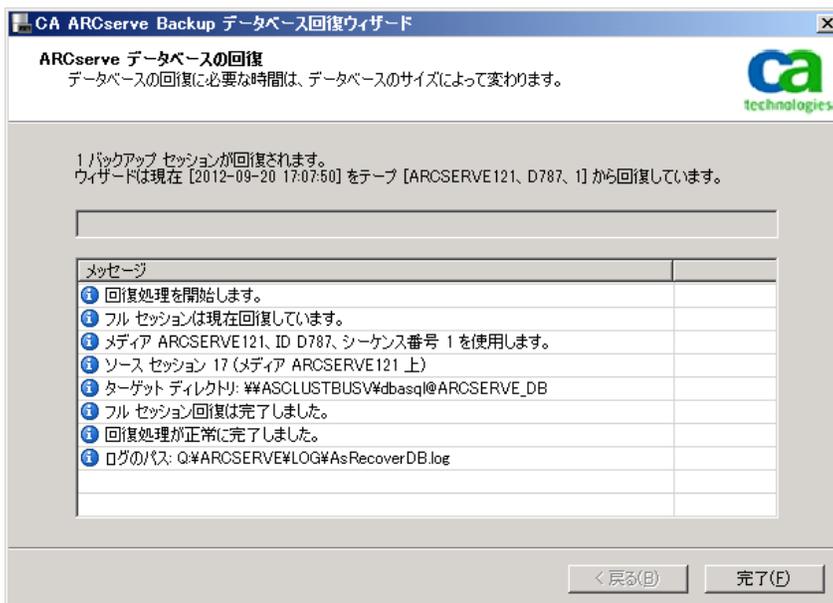


復旧したいデータベースが表示されない場合は、[その他復旧ポイント] をクリックします。[メディアのスキャン] が表示されますので、[接続] をクリックします。デバイス グループが表示されますので、デバイスグループを展開し、復旧するデータベースが含まれるメディアを選択し、[スキャン] をクリックします。arcserve データベース復旧ポイントが表示されたら、 を付け [リストに追加] を行います。



(10) [ARCserve データベースの回復]

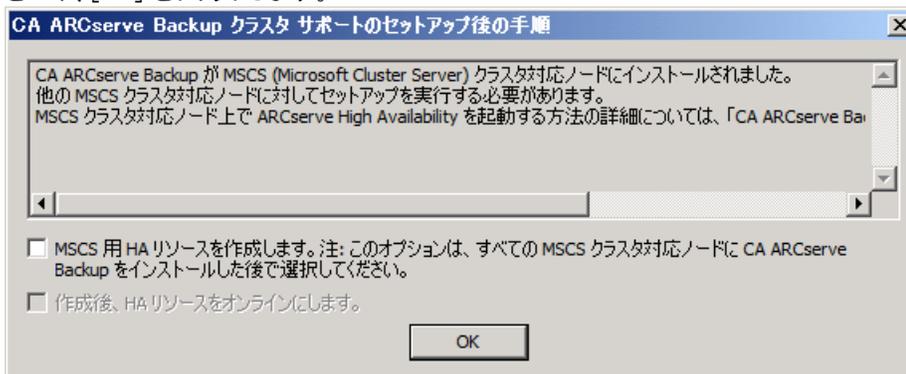
arcserve データベースの回復が完了すると、以下のように表示されますので、[完了] をクリックします。



(11) クラスタ リソース の再設定

コマンドラインで、arcserve Backup インストールフォルダ (例: Q:%ARCSERVE) に移動し、以下を実行します。
Q:%ARCSERVE> babha -postsetup

[CA ARCserve Backup クラスタ サポートのセットアップ後の手順] が表示されます。
[MSCS 用 HA リソースを作成します。] および [作成後、HA リソースをオンラインにします。] の両方にチェックをつけ、[OK] をクリックします。



- (12) [フェールオーバー クラスタ マネージャー]の起動
 [スタート]メニューの[管理ツール]から [フェールオーバー クラスタ マネージャー] を起動し、その他リソースに、[ARCserve ASDB]、[ARCserve HA] および [ARCserve Registry] が追加されていることを確認します。



アクティブ ノードの復旧が完了しましたので、「2.4 パッシブ ノードの復旧」へ進みます。

2.3.2 別の(リモート) ARCSERVE BACKUP サーバで ARCSERVE データベースを復旧

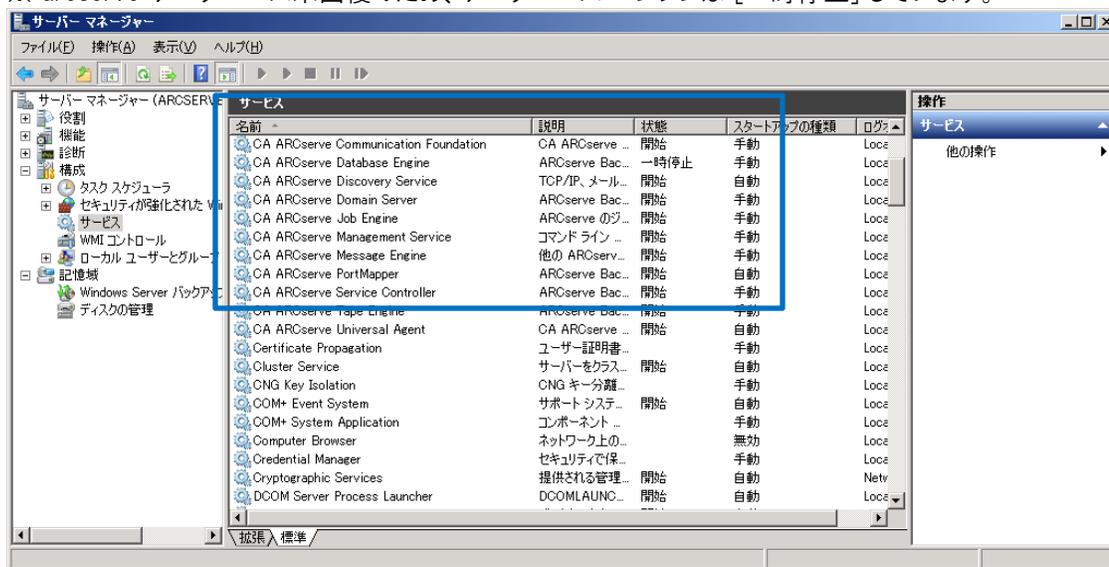
クラスターサーバの他に、バックアップメディアを読み込むことができる arcserve Backup サーバがある場合、クラスターのアクティブサーバの arcserve データベースをリモートの arcserve Backup サーバから復旧できます。

(1) arcserve Backup 関連サービスの確認

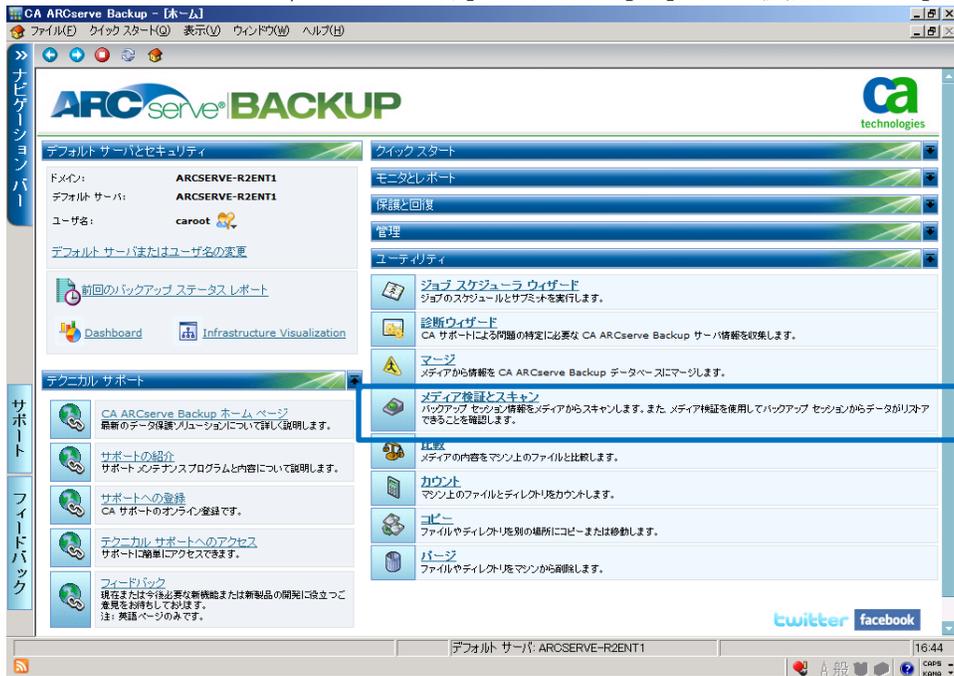
復旧したアクティブサーバで arcserve Backup 関連のサービスが起動していることを確認します。

起動していないサービスがある場合、arcserve Backup インストールフォルダで [cstart.bat] を実行して下さい。

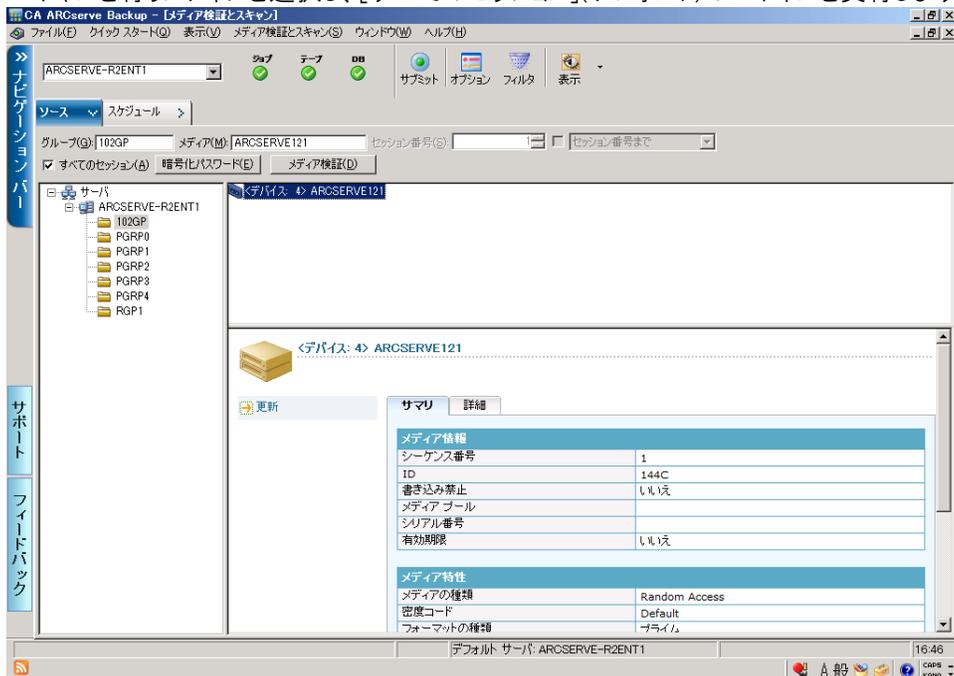
※ arcserve データベース未回復のため、データベース エンジンが [一時停止] しています。



- (2) バックアップ メディアのセッション情報を反映
 リモートの arcserve Backup マネージャで、[ユーティリティ] - [メディア検証とスキャン] を開きます。



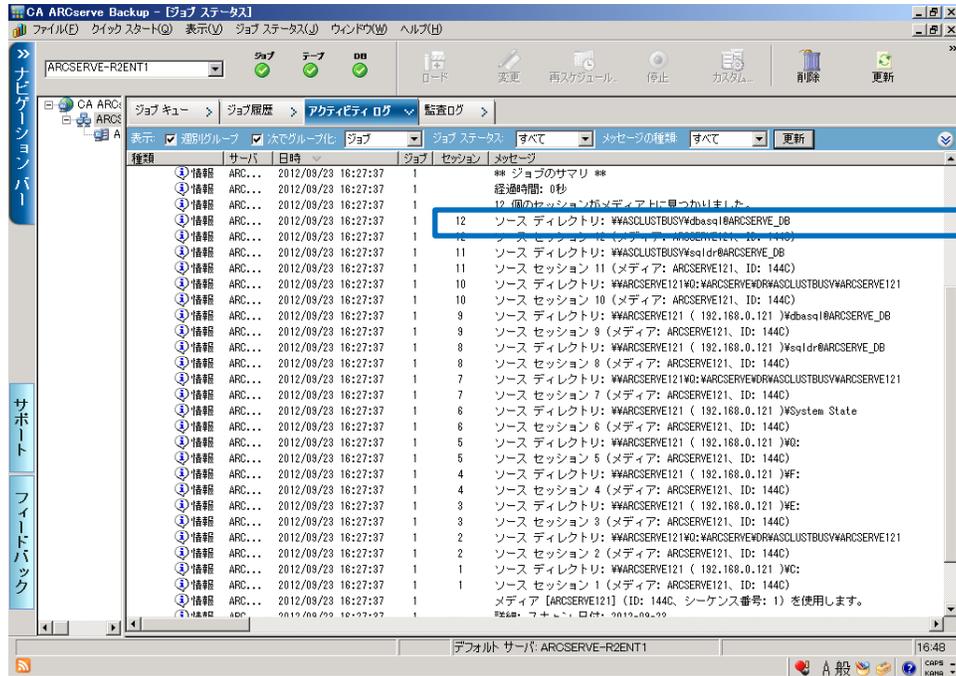
- (3) スキャンの実行
 スキャンを行うメディアを選択し、[すべてのセッション](デフォルト)のスキャンを実行します。



(4) スキャン内容の確認

[ジョブ ステータス] マネージャを開き、スキャンが完了していることを確認します。

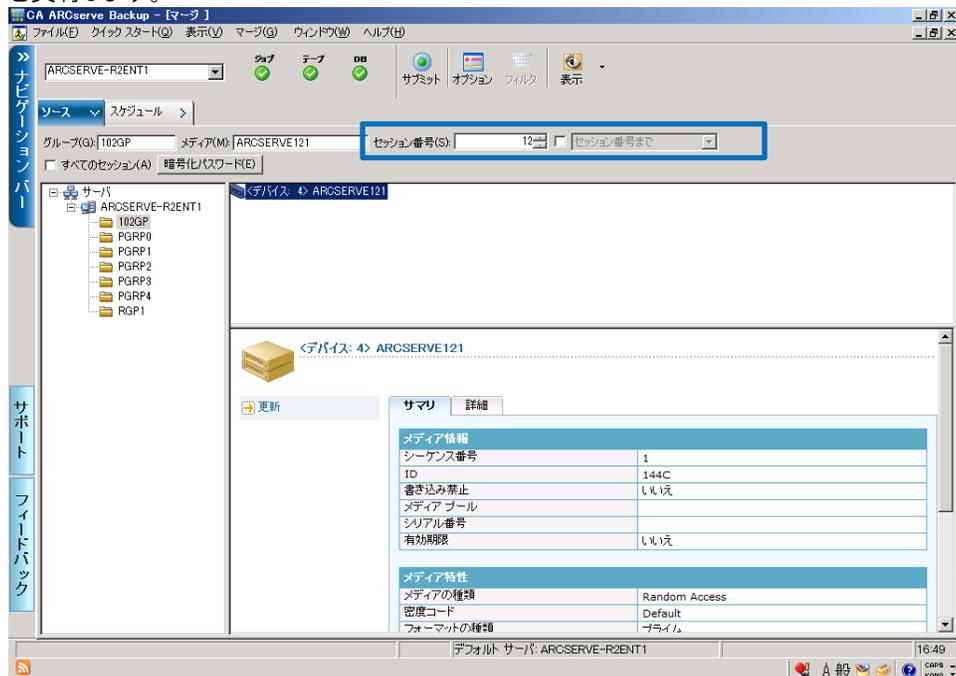
完了したスキャン ジョブのアクティビティログを展開し、ARCSERVE_DB (デフォルトのデータベース名) セッションのセッション番号を確認します。



(5) データベースのマージ

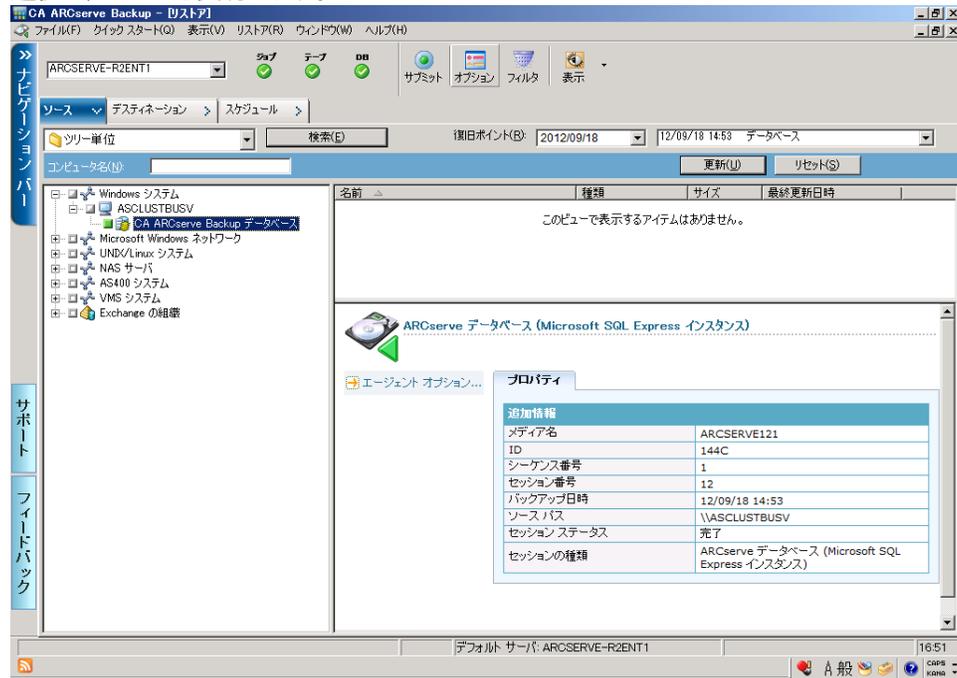
リモートの arcserve Backup マネージャで、[ユーティリティ] - [マージ] を開きます。

(4)で確認したセッションのマージを行います。すべてのセッションの を外し、セッション番号を入力しマージを実行します。



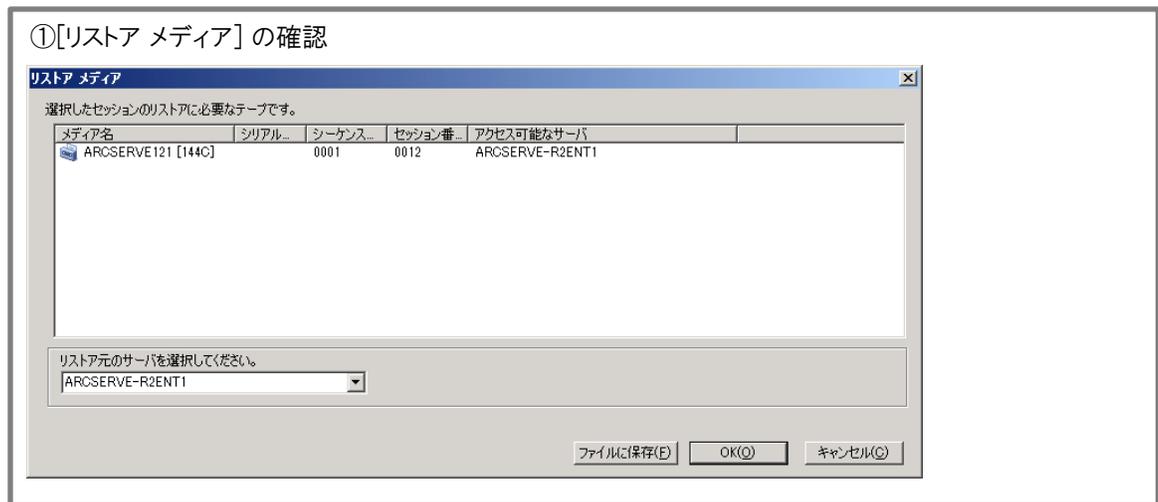
(6) データベースのリストア

リモートの arcserve Backup マネージャで、[クイック スタート] – [リストア マネージャ] を開きます。
[ツリー単位] (デフォルト) で、[Windows システム] を展開し、クラスター ノードの arcserve データベースを選択し、リストアを実行します。

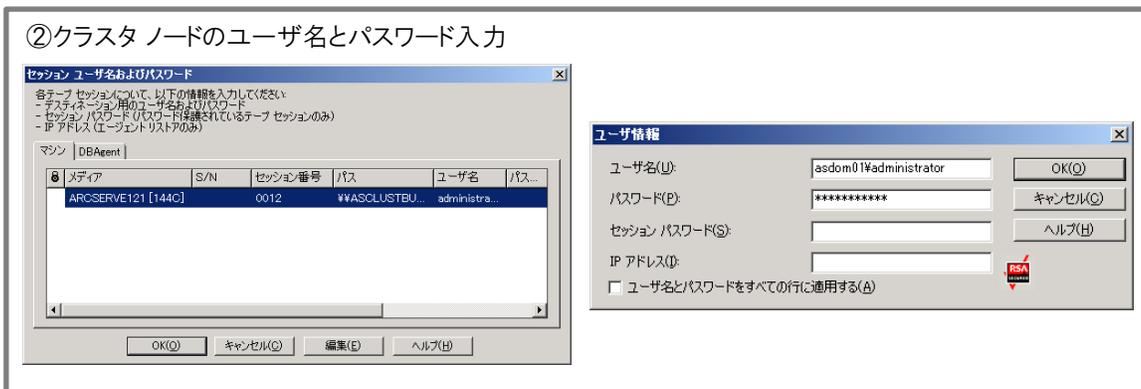


(7) セキュリティ情報の入力

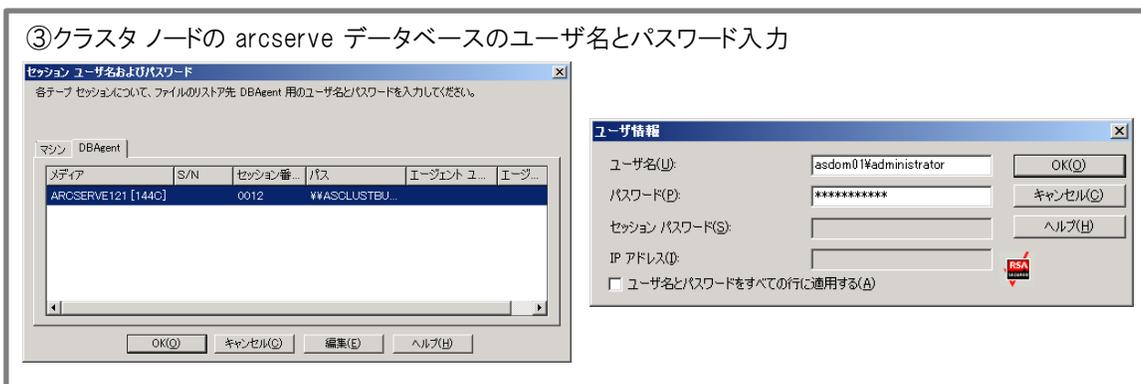
リストアを実行すると、① [リストア メディア] 画面が表示されますので、内容を確認し [OK]をクリックします。
次に [セッション ユーザ名およびパスワード] 画面が表示されますので、② [マシン] タブと ③ [DB Agent] タブの両方で、ユーザ名とパスワードを入力し、[OK]をクリックしリストアを実行します。



② クラスタ ノードのユーザ名とパスワード入力



③ クラスタ ノードの arcserve データベースのユーザ名とパスワード入力



(8) リストア後の確認

クラスタ ノードで、arcserve Backup マネージャを起動し、データベースの参照ができることを確認します。

(9) カタログ ファイルおよびジョブ スクリプトのリストア

必要に応じて、カタログ ファイルおよびジョブスクリプトをリストアします。

ジョブ スクリプトのリストア方法は、arcserve Backup 管理者ガイド、[第 8 章: バックアップ サーバの管理]の [CA ARCserve Backup ジョブ キューのリストア] (P710) を参照してください。

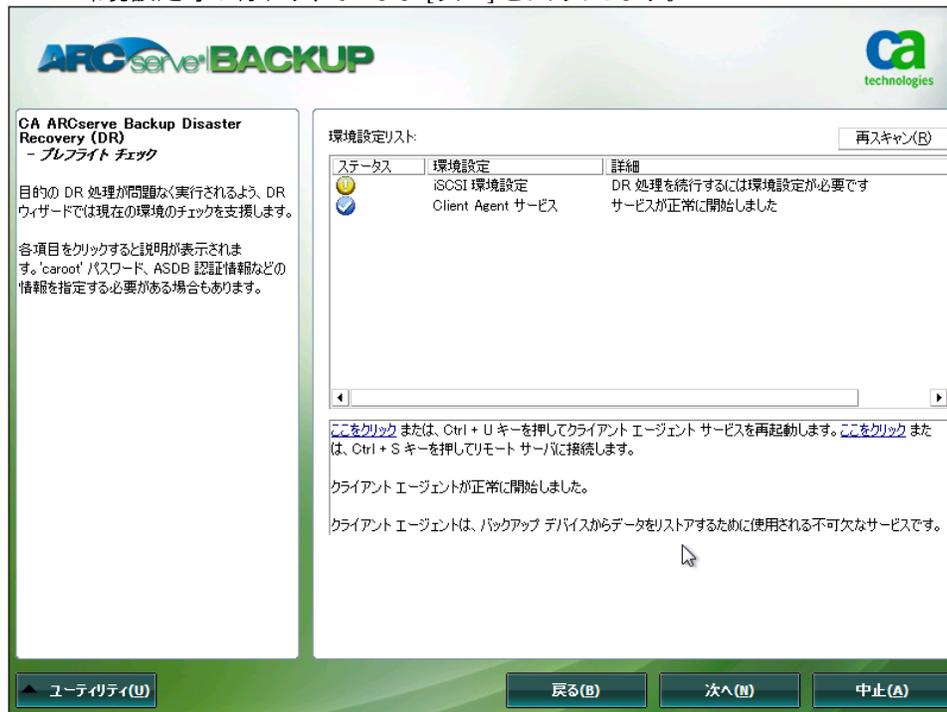
2.4 パッシブノードの復旧

パッシブ ノードの復旧では、ローカル ディスクのみを復旧しますので、共有ディスクは切り離して作業を開始します。arcserve Backup インストール DVD からサーバを起動します。



アクティブサーバおよびパッシブサーバの両ノードの復旧を行う場合、パッシブ サーバの復旧は、アクティブ サーバの復旧完了後に実施してください。
パッシブ サーバの復旧では、デフォルトで仮想サーバの arcserve Backup から復旧しますので、アクティブ サーバが稼働している必要があります。

- (1) アクティブ ノードの復旧手順を参考に、(1)から(6)まで同様の作業を行います。
(7)からの手順を以下の方法で実行します。
- (7) プレフライト チェック
DR を行うためのチェックが実行されます。パッシブ ノードでは共有デバイスの復旧は実行しないため、iSCSI 環境設定等は行わず、そのまま [次へ] をクリックします。



- (8) リストア対象セッションを選択する
 リストアするセッションを確認し、[次へ] をクリックします。

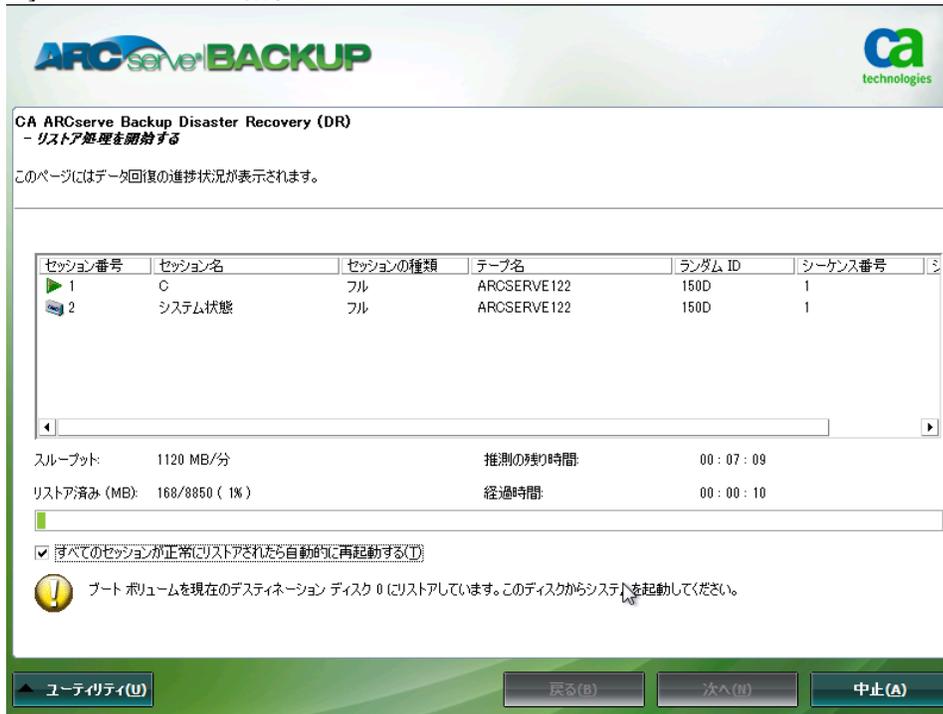


- (9) セッションリストの サマリ
 セッションリストを確認し、[開始] をクリックします。



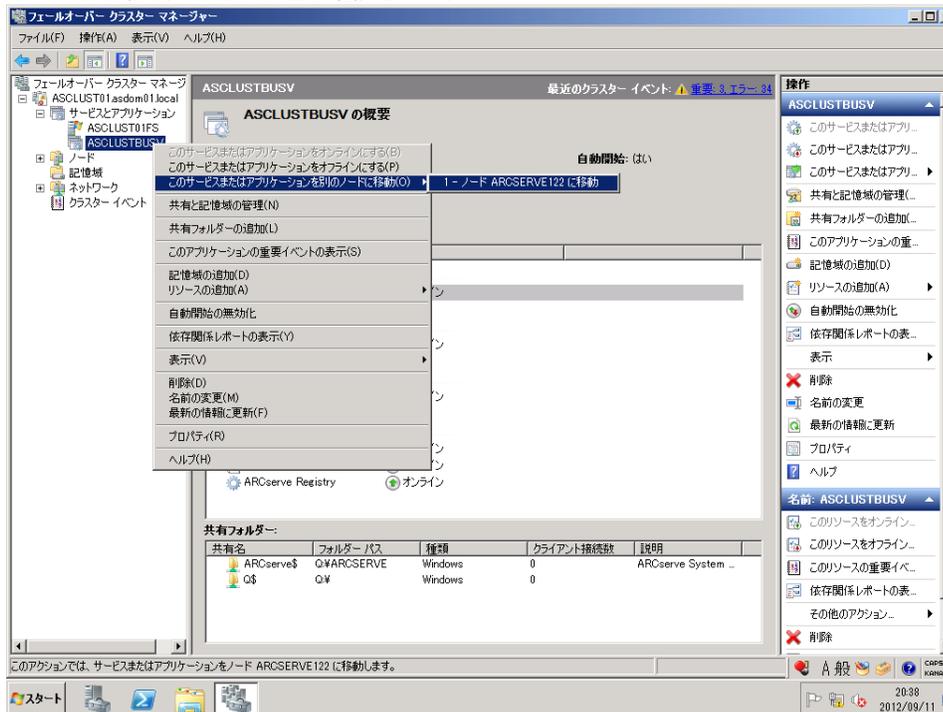
(10) リストア処理を開始する

リストアが開始されます。必要に応じて [すべてのセッションが正常にリストアされたら自動的に再起動する] チェックボックスを解除します。



(11) 復旧の確認

パッシブ サーバの復旧完了後、共有ディスクを接続し、アクティブ サーバとパッシブ サーバ間でクラスタサービスを移動ができることを確認します。



3. 共有ディスクの復旧（ノード障害が発生していない場合）

3.1 クラスタ非クォーラム共有ディスクの復旧

- (1) パッシブ ノードで、[Cluster Service] を停止し、パッシブ ノードから共有ディスクを切断します。
- (2) アクティブ ノードをシャットダウンし、共有ディスクを新しいディスクと交換します。
- (3) アクティブ ノードを起動します。
- (4) 非クォーラム共有ディスクのパーティションを再作成し、パーティションをフォーマットします。
- (5) arcserve Backup マシンからリストア ジョブを実行し、非クォーラム共有ディスクヘデータをリストアします。非クォーラム共有ディスクの失われたボリュームをすべてリストアするには、フル ボリューム（ドライブ全体）を選択します。
- (6) リストア ジョブが完了したら、[フェールオーバー クラスタ マネージャー] を使用して、共有ディスクをオンラインに戻し、共有ディスクが再接続されたことを確認します。
- (7) パッシブ ノードを起動し、クラスタ サービスを起動します。

3.2 クラスタ クォーラム ディスクの復旧

ジョブ フェールオーバー構成上に arcserve Backup を導入している際、クラスタ クォーラム ディスクが壊れた場合、arcserve Backup は共有ディスクの導入されているため、起動することができません。このため、サーバ全体を復旧する必要があります。「2. ジョブ フェールオーバー構成上の arcserve Backup サーバ復旧」を参照してサーバを復旧します。

4. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカatalogや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

4.1 製品情報

製品情報

<http://www.arcserve.com/jp/products-solutions/products/server-backup-solutions.aspx>

arcserve Backup の FAQ

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/~media/Files/FAQs/asbu-r165-faq.pdf>

※ 上記 FAQ のリンクは r16.5 用です。一部 r16.5 で搭載している機能の紹介が含まれています。

4.2 サポート情報

<http://www.arcserve.com/jp/support.aspx>

動作要件:

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/sysreq.aspx>

マニュアル:

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/manual.aspx>

4.3 トレーニング情報

4.3.1 無償トレーニング

どなた様でも参加いただけますので、この機会にご活用ください。半日で機能を速習する arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。(競業他社の方はお断りしております。)

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/seminar.aspx>

※ 無償ハンズオントレーニングは最新バージョンでの開催となります。

4.3.2 セルフトレーニング

ウェブで気軽に arcserve Backup の画面を操作できるセルフトレーニングも用意しています。色々なコンテンツがアップロードされていますが、タイトルにセルフトレーニングと記載のあるコンテンツにアクセスしてください。

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/online-demo.aspx>

(補足)

セルフトレーニングでは、arcserve シリーズの簡単イメージ バックアップ『arcserve D2D』も用意しています。上記リンクより、arcserve D2D のセルフトレーニングにもご参加可能です。